

Freedom



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第13号

2013年 10月11日発行

編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめあう日」

東日本大震災、豪雨による水害により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

各校の解放研や人権クラブなど、自主的な人権活動に取り組む中では、いろんな気づきや学びがあります。そのことをみんなに伝えたくて、記事にしてもらうのですが、毎回、力作ばかりで誌面に入りきりません(汗)。順次掲載しますので、ご期待ください。



第三十一回

わたぼうし檀原コンサートに参加して

奈良情報商業高校 人権クラブ

二〇一三年三月十日(日)、かしはら万葉ホールで『わたぼうし檀原コンサート』が開催され、私は人権クラブの先輩一名と一緒に初めて参加しました。

オープニングでは、「Super Dance Studio」によるダンスが披露され、幼い子どもや学生、大人達が一緒になってダンスパフォーマンスを行い、とても上手く表現され、凄いなあと感じました。

次に、地元からの入選曲として「箱折り」・「輝きに乾杯」・「MY LIFE」の披露がありました。団野利夫さんが作詩・作曲した「箱折り」は、何銭や何円という単位で箱折りの仕事をしている思いと誇りが伝わり、「輝きに乾杯」では、作詩した上田美智世さんが病と闘っている姿、何事も前向きに考え生きていく姿がうかがわれ、「MY LIFE」では、長期間の闘病生活、車椅子での生活、そして母の入院…。

川島寛子さんの母や周囲の人達に対する感謝の気持ち、辛いことと悲しいことを乗り越えようとする力強い思いが心に響きました。そして、「AOZORA



「今、くじけそうなあなたへ」と「キミだけの物語」勇気を出して」の曲は、おとなしいタイプの私でも、何かの勇気を貰えたようでとても感動しました。

和太鼓「やまと樂鼓の会」の演奏に続いて第二部が始まりました。第二部では、『わたぼうし音楽祭』の全国入選曲の紹介があり、「墨字」・「一歩ずつ」・「守りたいもの」・「半分こっこ」・「絆」・「わたぼうし」の各曲の披露がありました。「守りたいもの」では、榛生昇陽高校福祉科の一年生による手話コーラスがあり、手話は難しいのに、とても上手に出来ていたので、何時間かかけて練習して頑張ったんだろなああと感心しました。「墨字」(点字以外の文字)を作詩した吉田美優さんと、「一歩ずつ」を作詩・作曲した菅田利佳さんは共に視覚障害者で、このわたぼうしコンサートを通じて友達になっただろうです。菅田さんのピアノを弾きながらの歌はとても心に響きました。

菅田さんは「ヘレンケラー記念音楽祭」で優勝し、四月に韓国で開催されるアジア・太平洋わたぼうし音楽祭へ出場されるそうです。また、「半分こっこ」や「絆」もこころが温まる曲でした。いよいよファイナレ。出場者全員(約二五〇名)がステージに集合しました。たくさんさんの若いボランティアスタッフの人達も通路などに並び、最後

に全員で『わたぼうし』を合唱してコンサートは終了しました。先ほども述べましたが、私は初めてわたぼうしコンサートに参加しました。人権クラブや高解研での活動を二年間続けて来ましたが、たくさんの人達がそれぞれの立場で頑張っている姿を感じることが出来ました。「井の中の蛙、大海を知らず」ではありませんが、来年も参加して幅広い心とエネルギーを貰いたいと思います。ありがとうございました。



高解研 研修・交流会 参加体験記

二〇一三年度 第一回 高解研 研修・交流会に参加して

僕は、六月十六日(日)に、桜井市まほろばセンターで行われた高解研の研修・交流会に参加しました。午前の研修では、ろう学校で教員をしてられる小林先生と、手話通訳をしてくださる畷傍高校の江波先生に、聴覚障害や手話について教えていただきました。現在、日本の聴覚障害者の数は約三十五万人で、全く耳の聞こえない人や、健常者に近い人もいるそうです。

全く聞こえない人は、手話や筆談

でコミュニケーションをとります。しかし、耳から情報が入ってこないもので、ラジオはもちろん、テレビでさえも字幕がないと何を報道しているのかわからないそうです。そのため、東日本大震災のとき、聴覚障害者の老夫婦が津波から避難するのが遅れてしまったそうです。僕はそれを聞いて、聴覚障害者の周りにいる人が支えることが大切だと思いました。

手話の研修では自己紹介のときに使う自分の名前や、数字などの手話を教えていただきました。僕は手話をしたことがありますが、初めて知る手話ばかりでとても勉強になりました。

研修のあとの調理実習ではチヂミを作りました。学年ごとの四つの班に分かれていたので、一年生同士、楽しく、また美味しく作る事ができて良かったです。

午後の意見交流では、他校の活動内容を知ることができ、今後の取り組みの参考にしたいと思いました。最後に、今回の研修・交流会のことを学校で発表して、たくさんの人に高解研を知ってもらい、高解研の輪が広まれば良いと思います。

(榛生昇陽高校一年 鈴原 純哉)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。



香芝高校では、解放研の活動の一環として、5月23日に映画鑑賞会を実施しました。映画のタイトルは「ゆずり葉」といい、顧問の先生のおすすめの作品でした。

映画の内容は、障害をもった方々がともに立ち上がって、差別をする社会を変えよう！というもので、鑑賞しながら、人権の大切さ、差別をすることがどれだけ悲しいかを思い知らされました。そんな映画を観て思ったこと、感じたことを今回紹介します。

〈「ゆずり葉」を見て〉

この映画の題名を聞いたのは初めてですが、顧問の先生が、とても感動する映画だと言われるので、「人権映画鑑賞会」で観る映画に選びました。この映画を観て、差別と闘い、社会と闘った障害者の方々のそれぞれの歩んできた人生や、社会の人々が、その方々にした人として最低なことである差別を、具体的に細かく描いていて、とても心に響きました。

例えば、耳に障害をもった女性が、薬剤師になりたくて、勉強も一生懸命して、面接試験を受ける場面があるのですが、目の前でゆっくり話をしてくれたらわかるのに、早口がわかるかの試験をしたり、口の動きを見えないようにして、聞き取れるかを調べ

たりして、できなかったため、不合格になった場面がありました。当時は、聴覚障害者は、薬剤師の免許を取れなかったそうですが、取れるための運動をして、その女性も薬剤師になることができました。

今まで差別について知っているつもりになっていました。しかし、差別された側の思いや悩み、その差別が原因で起こったことなど、細かくは知りませんでした。だから、人権について、観る人に訴えるこの映画を見られて、本当によかったと思います。

今回は、障害のある方々が受けた差別がメインの話でしたが、この映画を観て、人権について深く考えることができたので、今度は、別の差別についても知り、差別が起こらない社会を目指していきたいと思います。
(香芝高校3年 飛多 亮佑)

※「ゆずり葉」は、全日本ろうあ連盟の創立60周年を記念して、2009年に公開された映画(62分)です。DVDや原作本も発売されています。なお、題名になっている「ゆずり葉」とは、暖地の林の中に生息する常緑高木で、若い葉が育つと交代に古い葉が落ちることから、この名がつけられました。

(「ゆずり葉 —君もまた次のきみへ—」

公式サイト <http://www.jfd.or.jp/movie/>)

高解研 夏期研修会 参加体験記

今回の高解研夏期研修会は、七月二十一日(日)に五校十名のメンバーと引率の先生方で行われました。朝十時に鶴橋駅東口に集合して、まずはコリアNGOセンターの方の説明を受けながら、鶴橋駅周辺の商店街を歩きました。商店街には、チマチヨゴリなどの民族衣装を扱うお店や、キムチやチヂミを売っているお店がたくさんありました。

次に韓国の食材や韓流グッズなどを扱うお店を見学して、御幸森天神宮に向かいました。御幸森天神宮には、鶴橋の地名の由来を示した文章がありました。それによると、この地名は日本最古の橋と言われる「つるのはし」に由来しており、「つるのはし」に鶴がたくさん集まったことから、鶴橋という地名ができたそうです。

そして、その後はコリアタウンへ向かい、キムチを作る工程や豚の頭などが売られているお店などを巡りました。なかでもキムチを作る工程を見たときは、とてもお腹がすいていたので、「できたてのキムチを食べたい」と思いました。最後に「共生」がいかに重要であるかというお話を聞いて、みんなが「共生」できる社会を早く築いていかなければならないと思いました。このあと、各学校に分かれて昼食タイムになりました。

午後からはJR環状線で移動し、ピースおおさかに向かいました。ピースおおさかでは、戦争や平和に関する貴重な展示がたくさんあり、それぞれをしっかりと見学しました。それらの展示を見て、「空襲や核兵器がいかに恐ろしいものであるか」について詳しく知ることができ



「もう二度と戦争を繰り返してほらない」と強く思いました。

それから、「十六地蔵物語」というアニメも鑑賞しました。このアニメは太平洋戦争により子どもたちが徳島県へ集団疎開する話で、疎開先の徳島県の真光寺で火事が起きて、二十九名中十六名が焼死し、その後亡くなった十六名を偲んでお地蔵さんが建てられたというお話でした。このアニメを見て、「本当に平和な世界をつくること」が大切であり、核兵器のない世界にしなければいけない」と改めて思いました。最後に、参加者全員が会議室に集まり、一人ずつ今回の研修会の感想などを発言して、お互いの交流を深めました。

今回の夏期研修会では、コリアタウンで「共生」の重要さに気づいたり、ピースおおさかで平和についてもう一度見つめ直す時間ができたり、そのほか様々なめったにできない貴重な体験ができたので、参加してよかったです。本当にありがとうございました。
(大宇陀高校二年 西翔太)

あしなが奨学金 募金活動に参加して

あしなが育英会は保護者を亡くされた子どもたちを物心両面で支えている民間の非営利団体です。特に、今回のあしなが奨学金の募金活動は、被災地に子どもたちのためのケアハウス(東北レインボーハウス)を建築するための費用なども含んだ募金活動と聞いていたので、頑張ろうと思

って、参加しました。
四月二十七日(土)の当日、八木駅で多くの学校の生徒が募金活動に参加していましたが、初めて参加した私は、何をすればいいのかわかりません

でした。とにかく、一人でも多くの人のために、募金活動を行っていることを伝えようと思ひ、頑張つて声を出しました。最初の方は素通りして行く人が多くつらかったですが、募金していただけたときはすごく嬉しく、もっと大きい声を出そうと思ひました。奈良情報商業高校の先輩方四人と協力してやっていたのも、長時間大声を出しつづけることはなかなか大変でした。しかし、募金していただく度に、「頑張ろう」という気が起きました。その結果、三時間ではありましたが、大勢の方に募金をしていただくことができました。特に、その中でも、小学校に入るか入らないかくらいの子が募金してくれたことが、心に残っています。そのとき、募金はお金ではなく、心をもらうことだと強く感じました。

今回の募金活動に参加して、募金活動をする側の気持ちを学びました。どこかであしなが奨学金の募金活動などがされていたら、募金してみようと思ひます。そして、また、募金活動にも参加したいと思ひます。
(奈良情報商業高校一年 源内 英斗)

高校生の人権広報誌

“Freedom” 第13号 (2013年10月11日発行)
編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ
発行 奈良県高等学校人権教育研究会
〒630-8133 奈良市大安寺 1-23-1
奈良県人権センター内
TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568
E-mail kodokyo@kcn.ne.jp
HP <http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/>

※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。編集スタッフも募集中です。
※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください)
※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。